

<参考調査①>

平成25年度 共同利用・共同研究拠点に関する活動状況

1. 共同利用・共同研究の活性化に向けた取組状況

(1) 他の共同利用・共同研究拠点との連携に関する特色ある取組

事業名	がんの細胞社会学の創出事業
実施期間	平成22年度～平成26年度(5年)
連携先	大阪大学微生物病研究所、東京医科歯科大学難治疾患研究所、東京大学医科学研究所・東京大学医学研究科、慶應義塾大学医学部、米国MDアンダーソンがんセンターがん生物学研究部門、米国国立がん研究所 フレデリック支所、中国復旦大学上海がん病院
事業概要	がん組織は、がん幹細胞を始めとする階層性を持つがん細胞集団と血管内皮細胞・線維芽細胞などの種々の正常細胞集団からなる細胞社会である。細胞社会的な観点からがんを研究し、がんに対する新たな治療法を開発する。

※他の共同利用・共同研究拠点(学内も含む)との研究上の連携について、記入して下さい。

※事業(事項)ごとに作成してください。

(2) 他の共同利用・共同研究拠点以外との連携に関する特色ある取組

事業名	がんの悪性化進展研究に関する国際研究拠点形成と若手研究者育成
実施期間	平成25年度～平成27年度(3年)
連携先	Memorial Sloan-Kettering Cancer Center (MSKCC) (米国ニューヨーク州ニューヨーク) Dana-Farber Cancer Institute (米国マサチューセッツ州ボストン)
事業概要	連携先研究機関と組織間ネットワークを成長させ、米国の優秀な人材を本研究所に受け入れることにより、本邦における共同利用・共同研究拠点である本研究所を国際的研究拠点として発展させる。派遣した若手研究者は、世界最高レベルの研究室での研究推進を経験することにより、高度な知識や技術および研究推進戦略などを習得し、高い国際感覚を備えた人材へと育成する。

※他の共同利用・共同研究拠点以外(他大学や大学共同利用機関、学内の他部局等)との研究上の連携について、記入して下さい。

※事業(事項)ごとに作成してください。

2. 共同利用・共同研究の国際的な取組状況

(1) 外国語ホームページの整備状況

有	<input type="radio"/>	無	<input type="checkbox"/>	言語名	英語
---	-----------------------	---	--------------------------	-----	----

※整備状況が有の場合、言語名を記入してください。

(2) 国際公募の実施状況

有	<input type="checkbox"/>	無	<input type="radio"/>
---	--------------------------	---	-----------------------

※共同利用・共同研究について、国際公募(外国人研究者の公募)の有無を記入してください。(研究集会等の国際公募は含みません)

(3) 共同利用・共同研究の外国人研究者専用枠の有無

有	<input type="checkbox"/>	無	<input type="radio"/>
---	--------------------------	---	-----------------------

(4) 外国人研究者の受入体制及び環境整備の状況

海外3カ国4機関と学術交流協定を締結し、外国人客員教員を招聘する等、研究所の研究活動に資する体制を整備している。

※当該拠点における外国人研究者の受入体制及び環境整備について、その内容を簡明かつ具体的に記入してください。□

(5) 国際的な情報提供・情報発信の取組

国際シンポジウム「金沢国際がん生物学シンポジウム」を毎年開催し、国際的な情報提供・情報発信の場となっている。

※当該拠点における国際的な情報提供・情報発信について、その内容を簡明かつ具体的に記入してください。□

(6) 国際的な共同利用・共同研究拠点としての特色ある取組等

国際的研究能力を持った研究者を養成するため若手研究者を毎年海外連携機関へ派遣している。また、国際シンポジウムを毎年開催し、海外研究機関から著名な研究者を招聘するなど国際的な最新の知見を得るよう取り組んでいる。

※外国人研究者の受入のみならず、国内の研究者の海外派遣等の取組等があれば、その内容を簡明かつ具体的に記入してください

3. 拠点の機能についての自己点検評価及び外部評価の実施状況

○拠点の機能についての自己点検評価及び外部評価の実施状況

区分	実施年度	評価実施方法	主な指摘内容等	指摘を踏まえた改善のための取組
自己点検評価	平成25年度	学内の3名の教授により、研究所全体の総合評価、各分野別の個別評価を、オリジナリティ、研究の方向性、研究成果等の観点から、自己点検評価を実施した。	抗がん活性を有する医薬品開発を目的とする研究テーマもあるが、医薬品としての実用化には考慮すべき条件が多くあり、現状ではそれらの条件が十分クリアされていない。このような課題の克服のためには研究所内だけではなく、企業等と各専門分野との連携が望まれる。	共同利用・共同研究拠点として保有している「薬剤ライブラリー」を活用した、学外の研究者との共同研究を推進する。
外部評価			該当事項なし	

※国際外部評価も含む。

※研究者コミュニティの意向を踏まえて共同で研究を推進するという共同利用・共同研究拠点の機能の部分についての評価の実施状況について記入してください。